

理想の医師像とは？

～皆で考えよう！学生のうちに学んでおくべきこととは？～



11月の奨学生会議を、19日(木)に行いました。参加したのは、1・2年生の奨学生5名。今回は、将来どんな医師になりたいか、それに向けて学生のうちにどんなことを経験しておいて方がいいのか、ということを皆でディスカッションをしながら考えました。

最初に、鈴木先生から神戸女学院の学生の取り組みや、SEALDsの活動を動画で紹介していただきました。その後に、学生時代に、医学連で初期研修医に対する処遇改善の運動に携わられたお話しから、学生時代に学業だけでなく、様々な情勢に問題意識を持って取り組むことの大切さを伝えていただきました。講義のあと、学生と医師、担当でディスカッションを行い、改めて将来どんな医師になりたいかを考えたり、自分ならどんな意見を持って、物事に取り組むのかということを考えることができました。

ディスカッションを行うことで、色々な意見を出し合うことができました。今後も、このような実践型の奨学生会議をしていきたいと思います。

●学生の感想●

- 最近あまり社会に目を向けていなかったが、自分の意見をきちんと構築して人の意見をぶつけていくこと、自分の頭で思考することの大切さを改めて認識できた
- 将来自分がどんな医師になりたいか、最近勉強、試験で忙しすぎてそのようなことを考える余裕が全くなく、今言えるのは「地域の人に信頼される医師」ということぐらいだが、また時間と余裕がある時に考えていきたい
- 今日の先生のお話を聞いて、ある問題について自分の意見を持ち、考えることが大事だと感じた。自分はこれまで賛成・反対とどちらが正しいと思っていましたが、人それぞれ価値観があるということを意識したいと思った